

## 第4回 シグマ研究. 専門委員会議事録

日 時：昭和44年11月21日(金) 11:15~17:30

場 所：日本原子力研究所本部 第2会議室

出席者：(五十音順)

安 (東大), 飯島(NAIG), 五十嵐(原研), 大田(京大),

大野(原研), 片岡(船研), 片瀬(九大), 桂木(原研),

坂本(原研), 瑞慶覧(日立. 山本代理)

~~瑞慶覧(日立. 山本代理)~~, 鈴木(原研), 立花(原電), 塚田(原研),

中嶋(法大), 中村(富士), 長山(原研), 西村(原研),

更田(原研), 宮坂(原研), 森田(MAPI),

(以上20名)

配布資料：

1. 第3回シグマ研究. 専門委員会議事録
2. シグマ委員会核データ情報専門部会熱中性子散乱W. G.  
第3回会合議事録
3. 日本原子力学会遮蔽実験研究専門委員会遮蔽定数小委員会  
第7回会合議事録
4. 45年度 核データセンターの実行計画(案)

議 題：

1. 前回議事録の確認
2. 各専門部会の現状報告
3. 45年度 活動方針の検討と審議
4. その他

議 事：

今回は百田委員長が都合により欠席する。委員長の依頼により西村氏

が代理して行う。

1. 前回議事録の確認

訂正は次の通り。

p. 3 6行 SCISPS → SCISRS

p. 3 15行 工学研究施課 → 工学研究施設

尚委員長からアナウンスされていた Progress Report の吟味は委員長欠席のため次回にまわすことにした。

2. 各専門部会の現状報告

a 遮蔽専門部会（但し、日本原子力学会）……片岡

資料3の説明があつた。

データシートに各ファイルのデータの範囲等に関する項目を記入している。

b 情報+評価専門部会……飯島

各W. G.毎に説明があつた。

(1) Review, Interpretation and evaluation

(a) Standard  $\sigma$  (中嶋)

評価されたデータの所在等をシートにまとめている。当面は Monitor するという段階なので会合は開いていない。また研究室の仕事としてのMeV領域のStandard  $\sigma$  は、4核種について進行中である。

(b) Heavy nucleus の  $\sigma_f, \sigma_c$ , Resonance Parameter, etc. (飯島)

(c) Medium-weight nucleus の  $\sigma_c$  (中村, 西村)

Cr, Fe, Ni, Mo の 1keV ~ 20MeV

測定法及びNormalizationによる違いを検討した結果、データの食い違いは減少する傾向にあることがわかつた。RACYによる計算は進行中である。

(d) Elastic & Inelastic (五十嵐)

1keV ~ 15MeV のエネルギー範囲において、Pu-240, Pu-239, U-238, U-235, Ni, Fe, Cr, Na, O のデータを集め ELIESE, STEVE を使つて計算を行つていく。現在は、

NEUDADA, SCISRS, 文献からデータを集め, 文献からのデータはシート化, カード化を行なっている。  $d\sigma_{el}/d\Omega, d\sigma_{in}/d\Omega$   $\sigma_{el}, \sigma_{in}, B_L$  等をテーブルの形にしたい。

(2) Fast F. P. (飯島)

今までに2回会合をもつて作業を進めている。

fission yield, mass yield の文献調査をすすめている。

(3) Thermal Scatt. (飯島)

10月31日に会合を持った。

(参考)・・・(西村)

燃焼率測定開発室から F. P. の計算についての質問があり説明に行った。 F. P. 関係の仕事はかなり興味を持つて見られている。

(4) 情報・検索システム (更田)

すでに4回の会合がもたれており, 前回の会合から具体的な仕事の話が始まった。 次回の会合に提出される作業計画案に関して詳しい説明がなされた。

o 文献収集 (坂本)

過去に収集されたデータシートのリファレンスリスト出版に向つて順次進められている。 今後のことについてはあまり議論が進んでいない。

今後のことに関しては来月合同専門部会を開いて案を作り, 本委員会に提出することになった。

o SCISRS plotting - 関連事項として - (五十嵐)

緒についたばかりでまだ結果はでていない。

プロットされたデータの配布に関する希望が出された。

c 炉定数専門部会 (桂木)

(1) Fast Reactor 用の炉定数をつく<sup>つた</sup>。

ENDF/B, UKND<sup>と</sup>, KFK120(I, II, III), KFK750 を基礎にして炉定数を作る<sup>つた</sup>。

(2) 炉定数の評価

現在準備段階である。

(3) Thermal Reactor 用の炉定数の改訂  
1966~67年に行なわれたJNDC<sup>SET</sup> No.1 の ReportがJAERI  
1176として出版された。

(4) Thermal Reactor 用の F. P. 炉定数の作成

(5) Fast Reactor 用の F. P. 炉定数の作成

以上各作業に関して簡単な説明があつた。

### 3. 45年度活動方針の検討と審議

資料4は

A. 核データセンターの活動項目

B. シグマ研究委員会専門部会の活動項目

の二つに分けてある。今回は委員長が不在のためBはあくまで参考資料にとどめ、Aのみを検討、審議する。

資料に関する意見を列記する。

- リクエストがなくても数値データの配布を考えて欲しい。
- 専門部会とセンターの間の報告制度とは？  
→ 議事録を詳しくし、資料を添付してセンターに提出してもらおうということ。
- センターは場合によつては強いリーダーシップをとることがある。
- Aの中の(5)シグマ研究委員会の事務局を業務の調整としたらどうか。
- (2) Evaluated file の作製を核データの評価と、評価ファイルの作成としたらどうか。
- 報告制度という名前が適当でない。
- 45年と限定するのはよくない。
- 各項目をセンター側でやれるというならそれでよい。それはセンター自身の問題だ。我々としては委員会で出た意見を考慮してもらえたらそれでよい。

以上、A核データセンターの活動項目の趣旨には異論はなく、(2)

Evaluated file の作成と(5) シグマ研究委員会の事務局の表現を修正すればよいということになつた。

さらにBシグマ研究委員会の専門部会の活動項目に関連する問題は次回に議論する。

4. その他

1) 原研の田中茂也氏が帰国されたので専門委員にお願いする。

2) 旅費の追加については10万円が認められた。(鈴木)

5. 次回

次回は来年度予算のことを考えて準備して来て欲しい。日時は幹事会に一任する。